



YCS【ゆりコミュニティ・スクール】通信

第1号 令和3年6月18日発行

本校が学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を設置して4年になりました。

コミュニティ・スクールでは、学校と地域住民、保護者等が力を合わせて学校の運営に取り組み、共に子どもたちを育み、共生社会の実現を目的としています。昨年度、本校では「ゆり支援学校の子どもを地域全体で育てるには？」をテーマに熟議を行いました。学校運営協議会委員の皆さんがゆり支援のことを知らない方1名を推薦し参加していただいています。委員の方のアンケートに「招待者を交えての意見交換は良かったと感じた。今まであまり関わったことのない方に障害のこと、ゆり支援のことを知ってもらう良い機会だったのではないかと思います。」との御意見がありました。地域の方たちと熟議などを通して活発な意見交換をし、相互理解を深めてきております。

今年度、新しい委員の方々5名お迎えし、第1回学校運営協議会が本校を会場に実施されました。委員の皆様には、本校児童生徒の学習の様子を直接ご覧頂き、その後の会議では今年度の学校運営方針の確認、それについてのご提案や助言等をいただいております。今号では、その様子を簡潔にお知らせいたします。

構成メンバーの紹介

◎学校運営協議会委員（○印は新任）

- 遠藤千代子 氏（由利本荘市健康福祉部子育て支援課長）
- 尾留川 等 氏（つるまい福祉会 水林新生園施設長）
- 藤原 徹 氏（本荘公共職業安定所 所長）
- 阿部由美子 氏（由利本荘地域生活支援センター 所長）
- 佐々木紀子 氏（由利本荘市教育委員会学校教育課 指導主事）
- 大場ひろみ 氏（文化交流館カダレ 館長）
- 安倍 武義 氏（元本荘北中学校長）
- 増田 良 氏（にかほ市教育委員会教育研究所 指導主事）
- 鈴木 貴大 氏（由利本荘青年会議所 理事長）
- 菅原 真理 氏（由利本荘市子ども読書活動推進会議 研修部長）
- 鷹島 直子 氏（障がい者支援事業所「逢い」サービス管理責任者）
- 小石 隆 氏（浜ノ町町内会 会長）
- 古池 正子 氏（学校後援会幹事）
- 細矢 朋明 氏（ゆり支援学校PTA会長）

☆本校職員

校長	高橋 譲	小学部副主事	長谷川絵美子
教頭	近藤 郁	中学部副主事	高橋 直子
教頭	神部 守	高等部副主事	
小学部主事	畠山 千恵	CS推進委員会担当	大庭せい子
中学部主事	菊地 正紀	進路指導主事	三浦 智己
高等部主事	鈴木 健	主任寄宿舎指導員	佐藤菜穂子



全校の授業参観



学校経営説明・承認



意見や感想を交換

◇会長、副会長の選出

・事務局一任により **会長** 安倍 武義 氏 **副会長** 尾留川 等 氏

話合いの内容

◇学校経営説明（高橋 校長）

- ・自立と社会参加を目指して、高等部の作業学習、現場実習では働く力を付けていく。小学部段階から挨拶、人の話を聞く、生活習慣を身に付けるなどの基本的なところから指導し、最終的に高等部卒業までに働く力につながるよう、一貫した教育を進めていく。また、学校の中だけでなく、将来社会で受け入れてもらえるよう、地域と学校の交流を積極的に行い、地域における障害理解を推進していく。それらを進める教職員は、しっかり切磋琢磨し合って、しっかりした指導ができるよう専門性を高めていく。
- ・重点事項～一つ目、新学習指導要領に基づく教育課程の改善では、授業改善の方向性として、子どもたち自身が、何を何のために勉強しているか意識して取り組めるよう授業づくりをしていきたい。例えば、体力づくりを行っているが、体力を付けることだけを目的にせず、何のために頑張っているのか、社会に出て働ける健康な体をつくるという意識付けをしていく。そうしていかないと、卒業すると何もやらなくなる。卒業しても健康を意識して体を動かそうとする意識付けができるような学びにしていくことが将来につながるので、大事にしていきたい。二つ目、地域との連携による社会参加の基盤作りについては、コミュニティ・スクールの活用を通して、地域の方々に学校や子どもたちを理解していただき、御協力いただいて子どもたちが地域に出ている環境を整えていきたい。三つ目、地域の生涯学習について、子どもたちが高等部を卒業し社会に出て行ったとき、仕事や生活について困らないよう、在学中に関係機関と顔つなぎをしていかないといけない。就職して悩んだとき、どこに相談したらいいかわからず、相談機関に行けと言われても行けない例もある。卒業前に相談機関の人と顔を合わせておくことで、卒業してからも行きやすくなるを考える。生涯学習についても同様に考えている。地域の人材、指導力を取り入れる一方、生活改善の場として寄宿舎の機能を活用しながら、充実させていきたい。

◇寄せられたご意見（抜粋）

- ・中学部から働く力を育てるのは大切だと感じた。コミュニティ・スクールで何ができるか、それぞれの立場で考えていければいい。
- ・授業を見て、子どもたちの挨拶がしっかりしており、「何やっているの」と聞くと丁寧に説明してくれた。日頃から頑張っていることがうかがえてうれしく見ていた。何か学校から言っていたら手伝えることがあると思うので教えてほしい。
- ・小さい頃は一緒に遊んでいた子どもたちが、それぞれの学校で力を発揮して、さらに社会に出て行くときにまた地域の職場や地域生活の中で、また子どもたちが一緒に活動できるようなそんな社会になればいいと思いながら関わらせていただいている。
- ・授業では、小集団で関わりを大切にしたい学び、話合いによる意思決定の場、目的意識を明らかにした作業学習と、子どもたちの発達の状況に応じて学びが展開されていると強く感じた。
- ・PTAとしても、地域の方に情報を発信できるように、自分のことも学校のことも学んでいきたい。
- ・個人的に、組子バインダーを購入し使用しており、使いにくいところを指摘させてもらった。いろいろな物に携わって個人的にも支援していきたい。
- ・菖蒲公園での花植を中学部生と浜ノ町町内会で一緒に行った。子どもたちの反省会では、「来年も花植したい」という声が上がったので、来年も続けられるように努力したい。
- ・中学部から就労への意識付けを高めることはいいことだと思う。高等部から認知面の高い生徒が入学してきたが、就労できない生徒がいた。高等部から入学する生徒が半数ほどいると思うが、高等部でどのように職業教育をやっていくのが課題になると思った。
- ・小、中、高等部まで成長と発達の様子が分かり、社会に出て生活する力を付けるという学校の取組が分かった。学校では様々な努力をしているが、まだ地域の理解、家族からの情報発信がしづらい社会なのかもしれないと考える。それを改善するためにも、この学校運営協議会が大きな役割を担っていると思う。
- ・卒業してからではなく、在学中に人とのつながりをもつことは大事だと思った。
- ・授業は初めて見た。子どもたちは元気に挨拶してくれ、楽しそうに授業を受けている雰囲気だった。我々も支えられることがあれば携わっていきたい。